

平成26年度沖縄群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

I 4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	50
平年並	40	30	30
低い(少ない)	40	50	20

(平成26年3月13日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

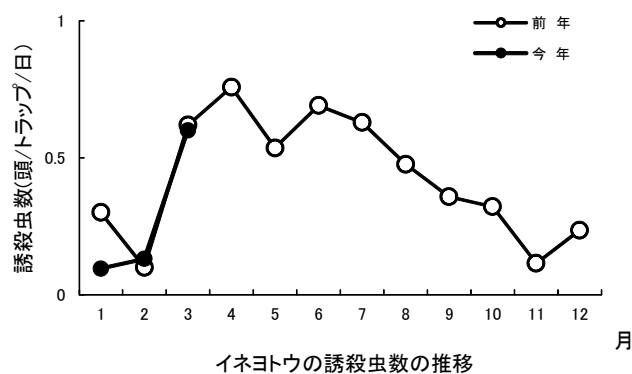
	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	21.4	24.1	19.0	165.7	123.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

- イネヨトウの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、株出圃場における芯枯茎率は1.4%であった。
 - b 3月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.5頭(前年0.6頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

- カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 3月下旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.1頭未満(前年0.9頭、平年0.8頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 2～3月の気温に基づく、3月24日時点での防除適期は、沖縄本島および周辺諸島で平年より2日遅く、南・北大東島で平年より3日遅いと予想される。
 - c この時期に茎当たり虫数が20頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
 - d 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月24日現在)

地域別	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月16日～4月30日	4月24日	4月22日	2日遅い
南・北大東島	4月12日～4月26日	4月21日	4月18日	3日遅い

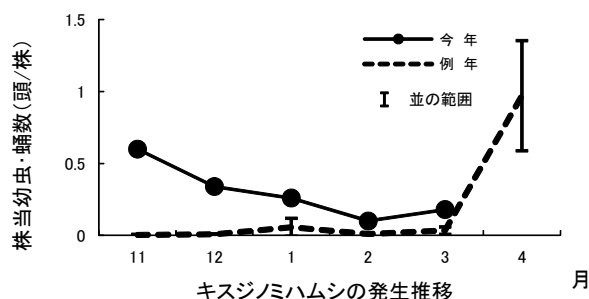
2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、発病枝率は6.3%であった。
 - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋かけ前までの防除対策が重要である。
 - c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - d 結実期には治癒効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
 - e 平成26年度病害虫発生予報第1号(平成26年3月24日付)号コラム参照。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、一部圃場で発生していた。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期防除に努める。
 - c 混合花の新葉や不用な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - e 薬剤防除を行う際は、受粉昆虫に影響のないよう巣箱等を圃場外に移動する。
 - f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 キャベツ

- (1) キスジノミハムシ
発生程度：多
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、株当たり成虫数は0.2頭(前年3.0頭、平年0.0頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

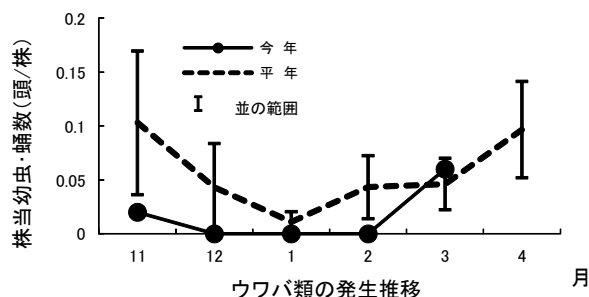
- a 植え付け前に土壌消毒を行い、幼虫の防除に努める。
- b 0.6mm目合いの防虫ネットによる被覆栽培(浮きがけ)を行う。
- c 圃場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し、圃場管理に努める。

(2) ウワバ類

発生程度 : 並

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は0.1頭(前年0.1頭、平年0.1頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 圃場周辺の雑草の除去を徹底し、圃場管理に努める。
- 低密度でも被害が大きいので、成虫が産卵に飛来したり、若齢幼虫をみつけ次第薬剤防除を行う。
- 天敵が生存できるよう、選択性殺虫剤を優先的に使用する。
- 若齢幼虫は葉裏にいるので、薬剤は葉裏に散布する。

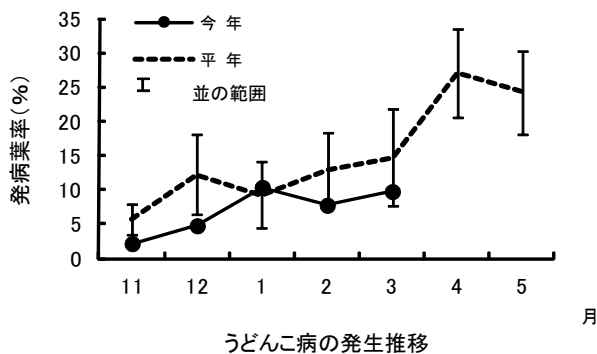
4 きゅうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度 : 並

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は9.8%(前年16.0%、平年14.8%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

5 にがうり(施設)

○ ミナミキイロアザミウマの防除対策

- 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年0.3頭、平年0.1頭)と平年並であった。
- 今後の気温上昇に伴い、本種の発生が増加することが予想される。
- 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 平成26年度病害虫発生予報第1号(平成26年3月24日付)号コラム参照。